

令和4年度

第2回学校運営協議会

「学校・家庭・地域で育てる東部の子」



令和4年11月22日（火）

浜松市立東部中学校

<次 第>

司会 教頭

(開催要件の確認)

1 会長あいさつ

2 校長あいさつ

3 議長の選出

4 前回会議録の確認

5 熟議

議長 ()

(1) キャリアアンケート結果について

(2) 東部中学校チャレンジプロジェクト2023について

6 その他

(1) 来年度の学校運営協議会委員について

(2) キャリア講座について 令和5年1月18日(水)午後1時30分～

(3) 2年生シヅクリ発表会、同窓会講演会について

令和5年1月14日(土) 本校体育館にて

・シヅクリ発表会 午前9時40分～ ・同窓会講演会 午前10時40分～

(4) 学校運営協議会 自己評価について (別綴じ)

評価用紙にご記入の上、12月16日(金)までにご返送くださいますようお願いいたします。

なお、メールでのご返送を希望される方は、下記アドレスまで空メールを送信してください。データを送らせていただきます。

東部中メールアドレス tobu-j@city.hamamatsu-szo.ed.jp

7 連絡

(1) 第3回学校運営協議会日程(案)

令和5年2月14日(火) 午前10時30分～12時00分

<令和4年度 学校運営協議会委員名簿>

(敬称略)

氏 名	役 職
廣野 篤男	浜松市自治会連合会会長
杉山 邦司	飯田地区自治会連合会会長
松永 新一	同窓会顧問
露木里江子	同窓会会長 浜松市議会議員
森田 賢児	浜松市議会議員
水谷加寿代	主任児童委員 (相生)
高橋 雅子	主任児童委員 (飯田)
杉山 智則	前PTA会長
稲垣 善彦	PTA副会長
森重 勝博	学校支援コーディネーター

オブザーバー

村松 拓也	東部協働センター所長
-------	------------

学校・教育委員会

宮内 真実	校長
中野 敬之	教頭
木下 久一	主幹教諭 (CS担当)
池田 未来	CSディレクター
鈴木 陽子	教育委員会 教育総務課

浜松東部中学校 Challenge Project 2023

～これからの社会をよりよく生きる生徒の育成を目指し、これから先の未来を見通し
時代の流れに合った学校教育活動をよりよいものにしていくために～

プロジェクト I 浜松東部中学校型 学年チーム担任制導入について

1 ねらい

○チーム医療型の学級経営をめざす

(学年全職員が生徒一人一人の担任であるという意識をもって関わり、生徒にとって最適な教育ができる学校づくり)

・複数の教員による担任制は「多くの異なる視点で生徒の変化を見取ること」や「生徒が話しやすい教員に相談できること」で、早期に問題に気づき、一人一人に応じた支援をチームで行うことができたり、多くの面から生徒のよさを認めたりすることができる。また、いじめ等の問題に早期発見・早期対応が複数の教員でできる。

○全学年職員が支援を要する(健康面、発達面)生徒に当事者意識をもって関わる。

・これまで以上に、生徒主体の学級活動(学級づくり)を進め、生徒に自治の力等、主体性を育む(リーダー・フォロワーの育成)。

・教員の経験年数、今後の働き方も多岐にわたるようになり(育児、介護、体調不良等)、そのような働き方に柔軟に対応し、安定した教育活動ができるよう(学級による差)にするため。また、教員としての資質の向上をめざす。

2 東部中の生徒の実態と課題

令和3年度「学校評価アンケート」から

○教職員から見た生徒は、素直であり、言われたことはやろうとする良い面がある。反面、自主的に行動することができない。自ら考えて行動する力が弱い。自己肯定感が低く、課題や困難に向き合おうとしない生徒が多い等、生徒の自主性について課題があると感じている。

○生徒や保護者のアンケートから「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答が20%以上あり、気になる項目(学年により差はあるが)

- ・クラスや学校は安全で、安心できる場所である(現2年生徒)
- ・将来の進路や職業についての考えや学びについて(生徒・保護者)
- ・自主的、計画的に学習に取り組む態度(生徒)
- ・教師の授業の工夫、意欲に関する指導について(保護者)
- ・生徒個に応じた学習指導について(保護者)
- ・生徒一人一人への理解について(保護者)

3 学年チーム担任制のメリット

○生徒・保護者

- ・多くの目で一人一人の生徒を見るため、変化に気づく機会が増える
- ・多く教員と人間関係を築く機会が増える
- ・出張等、不在の教員がいても基本的に学級指導に支障がない
- ・教育上の相談がチームで日常的にでき、安心できる教育環境の提供ができる
- ・生徒が主体的によりよい学級づくりを目指す姿勢が育成できる

○学校・教職員

- ・情報共有が必要となり、教員間のコミュニケーションが増え、生徒理解が進む
- ・ベテランと若手の組み合わせにより、教師の資質向上を図ることができる
- ・教師自身の学校運営・学級経営へ参画意識が向上し「学校力」が向上する
- ・教師の得意分野を生かし合う仕組みができ、魅力的な学校づくりにつながる

4 他県実施校の課題から

- ・窓口担当(事務担当)を設置する
(学級事務・保護者や生徒が誰に相談してよいか判断できない場合の相談窓口を明確化)
- ・1,2年生で実施 学年主任を除いた7人?で全学級を担当する。
- ・年度当初に、「分掌一覧(保護者が誰に何を相談すればよいかを明記)」と「4~6月の担当表」を生徒・保護者に配付
- ・来年度のみ3年生は実施しない

5 具体的な今後の取組

- ・松戸市立栗ヶ沢中学校視察等の他県で実施している方法を参考に東部中としての方法を検討していく
- ・リスクやデメリットも想定しつつ、よりよい方法を全職員で検討する

プロジェクトⅡ 学習習慣の定着と学力向上について

1 ねらい

- ・自らの可能性に挑戦し続ける生徒の育成
- ・学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら学ぶ(学習指導要領)
- ・自分事として必要感をもち、将来に向かって主体的に学ぶ生徒の育成

2 東部中の生徒の実態と課題

- ・自主的、計画的に学習に取り組む姿勢に乏しい
- ・学力が十分定着していない生徒が少なくない

3 具体的な取組

- ・単元テストを実施 定着度は廃止し、実力テストを学期に1回実施する(検討中、現状維持?)
- ・スモールステップを大切に、「わかった」「できた」を実感させる
- ・補充学習の充実(学力が定着していない生徒のために設定)
- ・ICTの活用等
- ・ヘルプデスク、自習スペースの設置(校長室前の廊下等)

プロジェクトⅢ 不登校対策・校内適応指導教室の充実について

1 ねらい

- ・生徒の悩みや問題への早期対応
- ・個別最適な学びの充実
- ・生徒の多様性への対応
- ・その生徒が大人になること、社会に出ることを意識した教育を重視

2 東部中の生徒の実態と課題

- ・不登校、不登校傾向の生徒、内面的に悩みや問題を抱えている生徒が多い
- ・校内適応指導教室の活用や運営方法に課題がある

3 具体的な取組

- ・個別相談の実施（不登校生徒だけでなく、相談期間を設定、希望制）
- ・毎月こころのアンケート実施(タブレット活用)
- ・校内適応指導教室は時間割の中に設定し、一日に少なくとも一時間は一人の教員が担当する(教科の偏りはあるが可能な教科の内容)
- ・協働的な活動(強制はしないが掲示づくり、レク的な活動)の設定
- ・校外適応指導教室、フリースクールのようなプログラムやイベントの実施(C・S、ボランティア…地域の方や大学生のボランティアの活用)
- ・教室とのオンライン授業…個に応じた対応(希望による)
- ・ICTの活用
- ・温かい環境づくりの推進(人的・物的)

プロジェクトⅣ ゆとりのある働き方

1 ねらい

- ・生徒に寄り添った温かい関わりを大切にする
- ・教職員の心身の健康の増進
- ・ワークライフバランスの充実
- ・地域部活動へ移行後の兼職兼業(地域での指導)を見据えて

2 東部中職員の働き方の実態と課題

- ・多忙であり、時間外在校時間が長い職員が多い
- ・疲労感を感じている職員が多い
- ・時間的余裕がない

3 具体的な取組

- ・朝のゆとりのある勤務時間…育児、介護対応、家事等との両立(日課の見直し)
(勤務時間の変更 8:15～16:45)
- ・週2日の部活動無しの日設定(会議の充実と早めの退庁)
- ・部活動終了時刻の短縮(最長 18:30)
- ・各時の退庁時刻を毎日設定(終わりの時刻を意識した業務の遂行…継続)
- ・年休、ライフプラン休暇の確実な取得
- ・事務的業務の削減(学年・学級経営案等…)

※プロジェクト実施にあたっては、学校運営協議会やPTA運営委員会で説明し、本年度中に保護者へ実施の主旨説明の文書を配付します。

チャレンジルーム (旧やわらぎ教室)

いつでもチャレンジ ~きみの挑戦を待っているよ!!~

「チャレンジルーム」3つの柱

- 安心できる居場所の提供
- 体験活動を基軸にしたコミュニケーション力や社会性の育成
- 一人一人の実情に応じたカリキュラム



自習ブース

☆自分に合わせて部分的な参加も OK です!

(たとえば、自分のペースで1日1時間でも週に1時間でも…)



活動場所

東部中学校 2階の一番西にある部屋

教室には自習ブースも設置されています。(一人で自習をしたい場合は開室時間内にずっと使用してもいいです)

開室日時

月曜日～金曜日 9:30～13:00 (東部中学校の登校日)

※活動によって日時や場所が変わる時があります。(校外での活動も計画しています)

チャレンジルームの1日の流れ



- | | | |
|-------------|-----------|------------------------|
| 9:40～9:50 | チャレンジタイム① | 今日の流れを確認する |
| 9:50～10:10 | ふれあいタイム | 読書、カードゲームなど |
| 10:10～10:40 | べんきょうタイム① | |
| 10:50～11:10 | プログラムタイム | 特色のある活動(裏面)のどれかが入ります |
| 11:20～11:50 | べんきょうタイム② | |
| 12:00～12:20 | チャレンジタイム② | 今日のふりかえりと次の日の活動内容の確認含む |
| 12:30～13:00 | 給食 | チャレンジルームで食べます |
| 13:00 | 下校 | |

特色ある活動

(この他、校外での活動も計画します)

ふれあいタイム

カードゲームや読書、おしゃべり等、自分の好きなことをやってゆったりと過ごします。

スポーツタイム

バドミントンや卓球などを通して体力の向上や集団の中でのコミュニケーションを重視した体育活動を行う時間です。

わくわくタイム

技術・家庭など実技教科の内容を取り入れた学習活動を行います。
生徒が心を動かし活動できる力の育成や、調理実習、木工製作、情報活用能力を育成する時間です。

いきいきタイム

クラブ、イラスト等の創作や表現を重視した芸術的な活動を行い、表現能力の向上と感性豊かな児童生徒を育成することを目指した時間です。

べんきょうタイム

自分で計画を立て、得意な教科や学びたい学習に取り組むことで、意欲的な学習を促す時間です。基本的には問題集やプリントを使用した自習ですが、分からない時は指導員や先生に質問することができます。また、希望があれば教室での教科の授業をタブレットを使用し、オンラインで受けることができます。(個に応じて通常教室での日課に合わせた時間帯に行います)

チャレンジタイム

自己を見つめるための時間(目標設定・振り返り等) 自己表現の場とし、自己認知や他者認知を深め、「生きる」という課題に向かう力を育成することを目指した時間です。(朝の会、帰りの会等)

校内適応指導教室「チャレンジルーム」へ通室するときは・・・

担任の先生、または生徒指導主事まで御連絡ください。

TEL 461-0231 東部中学校



令和4年8月 31 日

関係各位

浜松市立東部中学校
校長 宮内 真実

2022 年度

浜松市立東部中学校「キャリア講座」の実施について

日ごろは本校の教育活動に御理解・御協力いただき感謝いたします。

さて、以下のように「キャリア講座」を計画いたしました。日々お忙しい中とは存じますが、御協力いただければ幸いです。

<はじめに>

本年度より、本校では東部中学校区の事業所の皆様の御協力をいただき、キャリア教育の一環として「キャリア講座」を開催したいと考えています。これまでも第2学年では学校と社会をつなぐ「シヅクリプロジェクト」を総合的な学習に取り入れてきました。この度は第1学年～3学年まで、全校生徒が参加する形式で考えています。

現在、小・中学校及び高校・大学では大きな教育改革が進められようとしています。これからの子供たちはこれまで経験したことのない予測不可能な事と出会い、少子化と超高齢化社会にあって、日本をどのような国へ導けるのかという命題を受けての事です。経済界では 2006 年から経済産業省が提唱した概念＝「社会人基礎力」として、子供たちが自己を認識して振り返りながら、目的、学び、総合のバランスを図ることが、自らのキャリアを切りひらく上で必要だと示しました。昨年度から実施されている「新学習指導要領」はそのような日本の社会人を育てる教育プログラムとすることができます。キャリア教育は、このような大きな変革の途中にある中で、各教科を中心とする授業を受けながら、子供たちが社会に出るために必要な資質・能力を身に付けさせていくような取り組みが必要であるとし、文部科学省がここ 10 年来、重視・提唱してきた取組です。浜松市でも市内の全小中学校で推進を提唱しています。本校でも本年度より、「キャリア教育」を学校経営の中心に置き、全教育活動を通して推進していきたいと考え、教育活動を展開しています。

「キャリア教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義されています。簡単に言えば、職業体験や進路学習、学校行事や道徳等での全ての学習経験を結び付けて、社会的・職業的自立にむけて必要な力『基礎的・汎用的能力』を身に

付けさせる教育です。先ほどの「社会人基礎力」と合致するものです。この『基礎的・汎用的能力』を本校の生徒の実態に合わせ、分かりやすく設定したものが、別紙の『わたしたちに必要に4つの力』です。講話の中で4つの力の一つでもよいので、ふれていただき、生徒が気付けるようにお話いただけると幸いです。

<実施する具体的内容について>

1 御協力いただく講座

- (1)日 時 令和5年1月18(水) 午後1時30分～(13:15集合)
- (2)対 象 1～3年生徒(全校生徒を異学年集団で1グループ20名程度)
- (3)方 法 40分の講座を2回行っていただきます。(生徒一人が2つの講話を聞きます。講義形式、対話形式、簡単な体験・実習等お任せいたします。)

2 講話の内容

- (1)なぜ、この職業についているのか、これまでの経緯について(簡潔に)
- (2)企業が必要としている労働力(どのような人を求めているか)
別紙『わたしたちに必要な4つの力』にふれていただけると幸いです。
- (3)働くことの楽しさややりがい
- (4)進路選択とキャリア発達・アップのために
 - ・磨くべき自分の力(良さ)
 - ・進路選択のアドバイス

等

以上、本講座でお話しいただきたいことです。前述の、日本社会や学校が目指す、急激に変化する世の中で個々の良さを伸ばしつつ、キャリア発達をしていく上での、御助言をいただきたいと思います。生徒にとって教員とは違い、本物の地域の社会人の皆様からお話しをいただく経験こそが大切だと思っています。どうぞ皆様の実践的なお話しで、生徒たちの心を動かしていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

連絡先

浜松市立東部中学校

宮内 真実・中野敬之(教頭)・根木智浩

TEL 053(461)0231

FAX 053(461)0103

Eメール mm22326@city.hamamatsu-szo.ed.jp